

兵庫県における *Rhyparochromus* 属 ナガカメムシ 5 種の分布について

高橋 寿郎

Rhyparochromus 属はナガカメムシ科 Lygeidae のヒョウタンナガカメムシ科 Rhyparochrominae, Tribe Rhyparochromini, subtribe Gonianothinae に属し、日本産は 7 種知られているがその内本州に分布しているのは 5 種であり兵庫県下にもこの 5 種を産する (本州産は総て Subgenus *Panaorus*)。

いずれも余り馴染のないナガカメムシかも知れないが注意すれば比較的目につく種も含まれている。

世界に広く分布している属で多くの種類がふくまれているがその生活史などまだほとんどわかっていないのが現状のようであり食草等も充分調べられていないようで今後の調査にまつ所が大きいグループである。

兵庫県下での分布状況も今迄全くとりあげられたことがないので此処に現時点でわかっている範囲でとりまとめておき度いと思う。

尚この類の分類学的研究は日高輝展氏のものがあり (Kontyu, Vol. 32, №2: 287-298, 378-383, 1964), それには 6 種が図説されておりさらに同氏によって 3 種の原色による図説がある (原色昆虫大図鑑, 第 3 巻, 1965)。いずれも大変貴重なもので本報文の同定に就いては夫々を参考にした。

○ *Rhyparochromus* (*Panaorus*) *adsperus* (Mulsant et Rey, 1852)

原記載, Ann. Soc. Linn. Lyon, 1852: 96. ヨーロッパからアムールに分布している種で日本からは本州の産が知られているだけのようである。和名はついていない。

革質部の先端近くに大きな班紋を有し、前背板の側縁黄味がかった白色。革質部は明るい黄色の部分全般に呈する種で体長 6.5 ~ 7 mm 位である。

県下での分布状況はよくわからない。もっと調べる必要がある種である。

産地: 神戸市烏原 (1 ex., 1-V-1977, 2 exs., 23-IX-1977).^{*} Tarumi, Prov. Harima [10-V-1932, S. Yamada leg., Hidaka, 1964].

○ *Rhyparochromus* (*Panaorus*) *albomaculatus* (Scott, 1874) モン

*産地のところで [] の中のものは文献からの引用, () の中のものは筆者所有標本である。

シロナガカメムシ

Scott氏により *Calyptonotus* (*Pagilius*) 属にて記載されている (Ann. Mag. Nat. Hist. (4)14, 439-440, 1874).

G. Lewis 氏採集品に基づく日本からのカメムシの論文の中で記載されているのであるが原産地名は記入されていない。

江崎博士による図説がある (日本昆虫図鑑, P. 228, f. 586, 1950, *Aphanus* 属)。

分布は本州, 四国, 九州と国外で中国, 満州となっている。江崎博士は乾燥した草地の地上に見られると述べておられ, 日高氏は食草にトウバナをあげておられる (1965)。

川沢, 川村氏も山ぎわの草地で生活していると記しておられる (カメムシ百種, P. 106, 1975, 属名 *Graptopeltus*)。

本種は県下において広く分布しているようであるし, 個体数も多いように思われる。体長, 6.5 mm。

産地: 洲本市三熊山 [1 ex., VIII-1973, 友国, 1974]。川西市大和, 横地 [仲田, 1978]。神戸市烏原 (1 ex., 20-VI-1976., 1 ex., 23-IX-1977, 1 ex., 2-IX-1978), 有馬 (1 ex., 20-VII-1962)。加西市畑 (1 ex., 29-VI-1974, 1 ex., 13-VII-1974)。多可郡市原 (1 ex., 24-IX-1972), 烏羽 (1 ex., 5-VII-1975)。神崎郡大河内町川上 (1 ex., 10-VII-1977, 1 ex., 3-IX-1977)。飾磨郡雪彦山 (1 ex., 14-VII-1967)。宍粟郡赤西 (1 ex., 9-IX-1978)。水上郡 [山本, 1954, 1958]。豊岡市内 [15-IX-1973, 高橋, 1975]。養父郡水の山 (2 ex., 4-IX-1973, K. Tsuji leg.)。美方郡浜坂 (1 ex., 17-X-1978), 扇の山 [高橋, 1975]。

○ *Rhyparochromus* (*Panarous*) *amurensts* (Lindberg, 1934)

原記載は Notul. Ent. 14:10-11, 1934 (*Aphanus* 属)。和名がついていない。種名のようにアムール産で記載された種である。

革質部の先端近くに大きな班紋を有し, 前背板の側方平たい部分には暗班点を欠く。小楯板, 先端を除き全く黒色。爪状部の基部は暗色。前側方角は黒色。体長 7.0 mm。分布は本州, 佐度島, 伊豆大島, 四国, 九州とアムールである。

本種は県下で今迄全く記録が無かったが神戸市内で見出されたりしているのでやはり調査が不充分の種のようなのである。

産地: 神戸市烏原 (2 exs., 31-VI-1977, 2 exs., 15-IX-1977, 3 exs., 28-IX-1977, 1 ex., 1-VIII-1978, 1 ex., 2-X-1978, 1 ex., 15-VI-1980)。藍那 (1 ex., 20-VII-1962)。三木市美曇川々原 (1 ex., 12-VII-1979)。加西市畑 (2 exs.,

27-VII-1974).

○ *Rhyarochromus* (*Panaorus*) *angustantus* (Montandon, 1889)

ウスグロシロヘリナガカメムシ

原記載は Rev. d' Ent., 1889:290 (*Graptopeltus* 属). 爪状部の基部には黒紋あり。革質部の内側には明瞭な黒帯を有する。体長 7.5 mm. 分布は北海道と本州。国外では中国, シベリアが知られている。あまり県下では産地が知られていない。生態, 分布とも今後の調査によらなければと考えている。

産地: 神戸市烏原 (1 ex., 9-IX-1977, 3 exs., 6-X-1977). Tarumi, Prov. Harima [Hidaka, 1964]. 佐用郡大撫山 (1 ex., 19-III-1976). 豊岡市杉ヶ沢 [高橋, 1975].

○ *Rhyarochromus* (*Panaorus*) *jahonicus* (Stål, 1874) シロヘリナガカメムシ

原記載, Enum. Hem., 4:160, 1874, *Pachymerus* (*Graptopeltus*) 属で記載。種名のごとく日本からの記載となっている。

爪状部の基部に黒紋なく, 革質部はうすい黒色の帯がある。体長 7.0 mm. 分布は本州, 四国, 九州である。

江崎博士も *Aphanus* 属で図説しておられる (I. C., P. 228, f. 585, 1950). 食草は日高氏がムラサキ科植物としておられる。生態と共に良くわかっていない。江崎博士は普通種と書いておられる。

県下での産もそう多くない。調査の必要がある種である。

尚, 日浦 勇氏はモンシロナガカメムシ, シロヘリナガカメムシを共に *Graptopeltus* 属として扱っておられる (原色日本昆虫図鑑, 下巻, 1977).

産地: 川西市大和 [仲田, 1978]. 西宮市仁川 (2 exs., 21-X-1956). 神戸市烏原 (1 ex., 21-V-1978). Tarumi, Prov. Harima [Hidaka, 1964]. 朝来郡竹田 (1 ex., 1-V-1978).

以上兵庫県産 *Rhyarochromus* 属ナガカメムシ 5 種の分布を中心に説明させて頂いたがまだまだ全くわからないことが多すぎる。引続き観察, 調査を続ける必要を痛感している。

(XII-1982)